



噴井



《噴井》
画・小林功氏
北ノ窪子ども風土記

令和3年2月26日
小田原市立富水小学校
校長 津田 早紀

学校教育目標 未来を笑顔で生きぬく富水っ子の育成

寒さが和らぐ日も多くなり、少しずつ春が近づいてきていることを感じます。

今年度は、PTA 清掃ボランティアの方に大変お世話になりましたが、毎年活動してくださっているボランティアさんにも変わらず支えられました。花壇ボランティアさんや生け花ボランティアさんは校舎内外の花を育てたり生けたりしてくださいました。お話トロッコやさざなみ会の読み聞かせ・語り聞かせはテレビ放送を通して行いました。また図書室の本の整理や本を借りに来る児童への声かけも行っていました。国際理解ボランティアさんは子どもたちが興味をもって外国語に親しむことができる掲示物を工夫して作成してくださいました。飼育ボランティアさんは休日にジャック(うさぎ)の世話をしてくださいました。皆様、本当にありがとうございます。

6年生ありがとう！

毎年児童会行事として行われている6年生を送る会。今年は感染症対策をしながら確実に行うことができる形を5年生以下の子もたちと考えました。その結果、各学年からの出し物を事前に録画し1本のビデオにしたものを、当日6年生は体育館の大スクリーンで、在校生は各教室のテレビで同時刻に見る形にしました。

この会に先立って2月中旬からは「6年生ありがとう放送」として、給食の時間に各学年から集まった6年生への感謝のメッセージを放送しています。また、2月24日(水)は運動場や体育館を6年生に1日自由に使用してもらう「6年生の日」を設定しました。6年生は数日前からこの1日をどのように過ごそうか各クラスで話し合いました。当日は天気もよく、6年生たちのたくさんの笑顔を見ることができ、とてもうれしく思いました。

「残りの日々をみんなと楽しく過ごしたい」多くの6年生が

6年生への感謝の気持ちをこめた飾りが、
校内に飾られ始めました



3月の行事予定

- 2日(火) PTA 登下校見守り(5-1)
- 8日(月) 清掃活動がんばり週間(~12日)
防犯腕章・保護者証回収(6年)
- 9日(火) 6年生を送る会 PTA 登下校見守り(5-2)
- 12日(金) タブレット貸し出し最終日
- 15日(月) 中学校体験(6年)
- 16日(火) 中学校体験(6年チャレンジ) PTA 登下校見守り(5-3)
- 19日(金) 給食終了
- 23日(火) 卒業式(6年) 臨時休業日(1~5年)
- 25日(木) 修了式 離任式
- 26日(金) 学年末・学年始休業(~4月4日)

PTA 清掃ボランティア

4日(木) 12日(金)

22日(月)

花壇ボランティア

8日(月)

17日(水)

ありがとう
ございます

お知らせ

☆通知表と連絡票について

すでにお知らせをしていますように、今年度から通知表の形式が変わりました。それに伴い、出席数と特別活動の記録(係・クラブ・委員会名)については通知表とは別に配付いたします「連絡票」でお伝えします。

☆感染対策について

コロナ感染症対策の大事な一つとして飛沫を防ぐことがあげられています。感染症対策を行うようになって1年以上たちますが、今後も学校、家庭、地域それぞれの場において、みなさんで気をつけていくことができますように引き続きご協力をお願いします。

校長室からのつぶやき

来年度から5年かけて、小学校全学年を35人学級にするという国の政策が示されました。小田原市ではすでに1年生だけでなく2年生も35人学級で運用されています。低学年から順次行われるという国の考え方からすると、富水小はしばらく大きな変化はないと考えられます。しかし10年先を考えると小田原市内の小学生の人数は減り、学級数が今より少なくなっていく可能性は大きいです。また、個に寄り添った指導・支援の考えも広まり、特別支援学級や通級教室での学習を行う児童も増えてきています。

タブレットを使用した学習、感染症対策を行いながらの活動、多様性を尊重する考え…教育現場には現代社会に応じた新しい教育や考えがどんどん取り入れられています。しかし、「一人一人の子どもたちが自分の力で生きていくこと」「様々な考えや立場を知る中で、自分の考えをもち、どう行動するか決定すること」「自分のよさ・強み・弱さを自覚すること」こうした力を育てていくことは、今までもこれからも変わりはないと考えます。

今年度は感染症対策のため、多くの行事や教育活動が中止や縮小となりました。また学校が再開されてから、学校における有効な感染症対策について模索しながら行ってきました。今後は今までと同じ教育活動ではなく持続可能な方法で行う活動へ変わっていくことも多いと思います。皆様にご理解をいただくと共に、この富水地区の人・もの・ことにかかわり生きていく子を育てていきたいと思ひます。